



この要領の目的

無線をふさぐ時間を出来るだけ減らし、スムーズで無駄のない無線通信を確保すること。

1 用語の定義

- (1) 無線局 …無線機のこと、転じて無線機を持っている人・隊のこと。
- (2) 基地局 …救護本部の無線機のこと、また通信指令員のこと。
- (3) 移動局 …携帯無線機のこと、またそれを持っている人・隊のこと。
- (4) 解信 …送信内容を正しく了解したということ、またその旨を伝えること。(かいしん と読む)
- (5) メリット…感度(感度・明瞭度の略)のことで、メリット1～5の5段階で表す。無線テストの際によく使う表現である。全く聞こえない場合は「メリットなし」という。

メリット5：問題なく理解できる
 メリット4：ほぼ理解できる
 メリット3：多少雑音(ばい)が理解できる
 メリット2：一部聞き取りにくい
 メリット1：ほとんど聞き取れない

2 コールサイン

- (1) 本部 …救護本部(救護車の場合は「救護車」)
- (2) 個人 …B L O O (OOは会員No.の前3桁の整数)
- (3) 遊撃隊 …第〇遊撃隊(他にも本部遊撃隊など)
- (4) 遊撃隊長 …第〇遊撃隊長
- (5) 情報通信担当者…第〇通信担当
- (6) 処置担当者 …第〇処置担当
- (7) 処置補助担当者…第〇補助担当



3 呼び出し要領

(1) 普通通話の呼び出し

正しい例	「第〇遊撃隊 から 救護本部」
正しくない例	「第〇遊撃隊 より 救護本部」
	「第〇遊撃隊 から 救護本部 へ」

(2) 至急通話の呼び出し

「至急 至急 第〇遊撃隊から救護本部」

(3) 一括呼び出し

「救護本部 から 各局」
 「救護本部 から 〇〇事案出動中の各隊」

(4) 呼び出しの中止

ア：混信を与える無線の呼出名称が判明している場合。

「第〇遊撃隊 しばらく待て」

イ：混信を与える無線局の呼出名称が不明の場合。

「しばらく待て」

4 応答要領

(1) 移動局の応答方法（救護本部から呼び出しをされた場合）

正しい例	(救護本部から第〇遊撃隊) ↓ 「第〇遊撃隊です どうぞ」
正しくない例	(救護本部から第〇遊撃隊) ↓ 「救護本部 どうぞ」
	(救護本部から第〇遊撃隊) ↓ 「第〇遊撃隊です 救護本部どうぞ」
	(救護本部から第〇遊撃隊) ↓ 「はい 第〇遊撃隊」

(2) 救護本部の応答方法

正しい例	(第〇遊撃隊から救護本部) ↓ 「第〇遊撃隊 どうぞ」
正しくない例	(第〇遊撃隊から救護本部) ↓ 「救護本部です どうぞ」
	(第〇遊撃隊から救護本部) ↓ 「救護本部です 第〇遊撃隊 どうぞ」
	(第〇遊撃隊から救護本部) ↓ 「はい 救護本部」

(3) 至急通話に対する応答方法

救 護 本 部	「至急 至急 第〇遊撃隊 どうぞ」
---------	-------------------

(4) 不確実な呼び出しに対する応答

正しい例	「第〇遊撃隊です さらに どうぞ」
------	-------------------

(5) 一括呼び出しに対する応答

応答を求められた移動局以外は送信しない。

(6) 相手局の通信内容に直ちに応答できないときは、「しばらく待て」を送信する。

5 通話の送信要領

ア：原則

正しい例	(通信事項のあと)「どうぞ」
正しくない例	(通信事項のあと)「以上」
	(通信事項のあと)「以上 どうぞ」
	(通信事項のみ)

イ：呼び出す相手局が開局していることが明らかな場合は、相手局の応答を待つことなく送信可能。但し、救護事案対応中の重要事項は一方向的に送信しない。

例	「第〇遊撃隊から救護本部 朝日会館前到着 警戒開始します どうぞ」
---	-----------------------------------

6 通話の送信要領

(1)通話の解信

正しい例	救護本部	救護本部 了解
	移動局	第〇遊撃隊 了解
正しくない例	移動局	第〇遊撃隊 傍受

(2)解信の要求

ア 通信終了後5秒以上経過しても受信局が解信しないときは、解信の要求を行う。

(救護本部から)	「第〇遊撃隊 了解か どうぞ」
----------	-----------------

イ 複数の移動局に送信内容を一齐送信したときは、移動局からの同時送信を避けるため、発信局側から解信の要求を行う。

呼出局		応答局
「救護本部から第〇遊撃隊および第△遊撃隊 救護本部へ引き揚げよ 解信をとる」		
「第〇遊撃隊 了解か どうぞ」	→	「第〇遊撃隊 了解」
「第△遊撃隊 了解か どうぞ」	→	「第△遊撃隊 了解」
「以上 救護本部」		

7 再送の要求

通話内容が不明確な場合、再送を要求することができる。

例1	「第〇遊撃隊のメリット2 さらにどうぞ」
例2	「第〇遊撃隊 無線断続 さらにどうぞ」
例3	「～まで了解 以下 さらにどうぞ」

8 通信の終了要領

- (1) 通信の終了とは、交信中に1つの話（内容）の終わりではなく、交信をこれで終わるというシグナルである。
- (2) 呼び出しをした局が相手局の了解の旨を確認終了時には、「以上 〇〇〇〇」と送信する。

呼出局		「第〇遊撃隊から救護本部」
	応答局	「第〇遊撃隊 どうぞ」
呼出局		「対応終了 現場引き揚げ どうぞ」
	応答局	「救護本部 了解」
呼出局		「以上 第〇遊撃隊」

9 無線送信時の注意事項

- (1) 早口にならないように気を付ける
相手が聞き取れるよう、普通の会話をする早さで、ハッキリとしゃべるよう意識する。
- (2) 話し始める前に1秒待つ
無線機のプレストークボタンを押してすぐにしゃべり出すと、最初の一言目が途切れてしまう。これを頭切れという。プレストークボタンを押したら、1秒待ってから話し始める。
- (3) 必ず解信を得る
自分が送った無線が、相手に届いているとは限らない。相手が理解して「了解」の旨を送ってこない限りは、相手には届いていないものと考え、再度送信すること。相手からの解信がない場合は、無線を送ったことにはならない。
- (4) 無線不感地帯に気を付ける
無線の電波は、大きな建物やコンクリートなどに遮られる性質をもつ。つまり、建物の影や建物の中、地下などに入ると、無線は届かなくなる。こうした無線が入らない場所を無線不感地帯と呼ぶ。活動中は自分が無線不感地帯に入っている可能性を常に意識して、不安ならば適宜救護本部を呼び出して、無線テストをしておく方が良い。
- (5) メリットが悪い場合
身体の向きや無線機の位置により、ほんの僅かな差でも無線が入ったり途切れたりすることがある。メリットが悪い場合は、まずはその場から動いて自分の位置を変えてみる。また無線機本体（アンテナ）を頭よりも上に掲げてみると、電波の入りが良くなることもある。